

#ふれしゃか hook 『ふれる社会学』（北樹出版）

10 章『外国につながる子ども』にふれる」 事前学習用ワークシート

2020/04/23

作成者：金南 咲季

1. p.84 にあるように、2018 年時点の在留外国人数は約 263 万人であり、国籍別に割合が異なっています。法務省の統計情報などを参考にして、1990 年代頃から今日にかけて、在留外国人数やその国籍別割合にどのような変化がみられるか調べてみましょう。また、そうした変化がなぜ生じてきたのか、社会状況の変化などと照らし合わせながら分析してみましょう。

参考：

- 法務省出入国在留管理庁 <http://www.immi-moj.go.jp/toukei/index.html>
- 額賀美紗子・芝野淳一・三浦綾希子編著『移民から教育を考える——子どもたちをとりまくグローバル時代の課題』ナカニシヤ出版、序章～2 章。

2. 親の転勤の都合により、小学校 4 年生の時に海外に引っ越し、現地の公立小学校に転入することになりました（どの国・地域に行くかは各自が決め、その状況に沿って考えてみてください）。学校に入ってから、具体的にどのような問題に直面するでしょうか。想像をしながら書き出してみましょう。また、その時どのような環境や関わりがあればその社会で安心して過ごすことができるか、本章 3・4 節などを参照しつつ自由に考えてみましょう。

#ふれしゃか hook 『ふれる社会学』（北樹出版）

10 章『外国につながる子ども』にふれる」 事後学習用ワークシート

2020/04/23

作成者：金南 咲季

1. 現在、多くの地域で、地方自治体等による「国際交流」の取り組みとして、食や音楽・舞踊、遊び、民族衣装などを紹介するお祭りやイベントが盛んに行われています。しかし、p.89 にもあるように、「3F (Food 食、Festival 祭り、Fashion 衣服)」と呼ばれることもあるこれらの交流のあり方は、重要な意義も認められる一方で、ある側面を見落としてしまう危険性とも隣り合わせだと言えます。あなたの地域で行われているものまたはインターネットの情報などから、具体的に「国際交流」や「多文化共生」のイベントを一つ取り上げ、その意義と課題（どのような点が抜け落ちているかなど）について話し合ってみましょう。
2. 本章で述べられている、コンタクト・ゾーンとしての「学校」は、昼間に学齢期の子どもたちが通う公立学校だけを指すものではありません。ここでは、「外国人学校」や「夜間中学校」がどのような学校なのか調べ、これらの学校の役割について考えてみましょう。

参考：

- 志水宏吉・中島智子・鍛冶致編著, 2014, 『日本の外国人学校——トランスナショナルティをめぐる教育政策の課題』明石書店.
 - ドキュメンタリー映画「こんばんは II」(夜間中学校と教育を語る会制作・森康行監督, 2019 年, <http://www.konbanha2.com/>)、森康行, 2019, 「『こんばんは』から『こんばんは II』へ——夜間中学校で出会った人たち」『基礎教育保障学研究』3, pp.62-70. (https://www.jstage.jst.go.jp/article/jasbel/3/0/3_62/_pdf/-char/ja)
3. p.91 の写真を眺めてみましょう。「学校」という場合は、単に教員と児童生徒から成る教育機関を越えて、どのような可能性をもった場所として捉えられるのでしょうか。また、多文化化や少子高齢化・過疎化、相次ぐ災害などが予測されるこれからの時代において、どのような場所として構想していくことができるのでしょうか。あなた自身の生活や学校経験なども踏まえつつ、自由に議論してみましょう。